

興 学校だより

平成30年12月1日

12月号

港区立筈小学校

校長 石井 卓之

心に刺さって取れない骨

校長 石井 卓之

魚料理を食べているときに、取り除いたはずの小骨が喉の奥にひっかかり、いつまでも取れないという経験がある方は多いと思います。小骨が取れるまで喉の違和感が続き、日常生活は不快になります。私の心の中には、小学校のときに刺さって、それ以来取れない骨があります。刺さって取れない骨は、私が行ったいじめに起因します。

私が通っていた小学校の近くにA君という私より2歳ぐらい下の男の子が住んでいました。彼の家は廃品回収が生業で家の前の空き地にはトタンが塀のように立ち並び、多種多様な回収品が積み上げられていました。当時は今のようにトラックで廃品を回収するのではなく、人力でリヤカーを引いて各家庭を回っていました。

私は学校が終わるといつも、自宅近くの公園で日が暮れるまで友達と遊ぶのが日課でした。その公園の前を彼はおじいさんが引くリヤカーの後ろで、荷物が落ちないように支えながら通り過ぎていきました。するとだれからともなく、「あっつ、Aだ。早くあっちへ行け。」という、ひどい言葉を投げかけます。もっともっとひどい人権を無視した差別的な言葉も数多くありました。おじいさんとA君は、まるでそんな言葉は聞こえていないように、淡々と通り過ぎて行きました。私は、彼のことはほとんど何も知りませんし、話をしたこともないと思います。自分の頭で考えることなく、周りの友達に同調して彼をいじめていました。遊べる時間に家の手伝いをしているA君は、本来であればほめられる存在です。見ず知らずの人間から、差別を受ける云われはありません。ところがA君を見かけない日々が続きました。人づてに、彼の家が道路の拡張工事予定地となり、転校したらしいと聞きました。私は謝罪の機会がないまま現在に至ってしまいました。もし私がA君だったらどうしただろう。

いじめは、どの学校、どの学級にも起こり得ます。周りと違うことは悪いことではありません。「保護者に心配をかけるから、いじめられていることは言えない。」、そんなことはありません。一人一人が自分の頭で考え判断することで、いじめを減らしたりいじめで悩んでいる人をサポートしたりできます。

私の心の骨が取れることはありませんが、同じ過ちは絶対に繰り返さないという思いはもち続けています。

生活目標◆身の回りを整えよう

安全目標◆行き先や帰る時刻を約束しよう

生活指導部

朝夕の冷え込みが日に日に厳しくなり、ポケットに手を入れて歩いている子も見られます。とっさのときに手が使えなくて、けがの元になることもあるのでご家庭でも注意をしてください。夕方5時には、辺りは大分暗くなっています。暗くなる前に帰宅できるように帰る時刻を約束し、守るようにしてください。

12月は、一年の締めくくりの月です。教室の机やロッカーの中を整理させ、気持ちのよい新年を迎えられるように指導していきます。